

特集  
座談会

# 人材の確保と育成



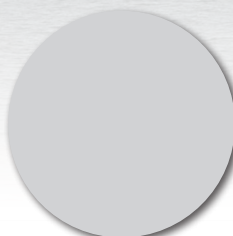
いしかわ かずひで  
石川 和秀  
【司会進行】



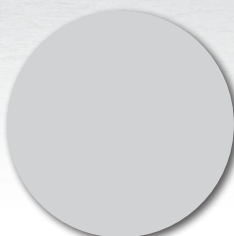
おおくぼ あおい  
大久保 碧



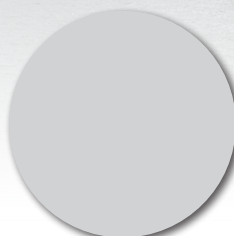
みやがわ こうすけ  
宮川 宏輔



やすだ のぼる  
安田 昇



やぶの かずひろ  
藪ノ 和洋



よしだ けいぞう  
吉田 桂三



いちかわ まさみ  
市川 政美

我が国の推進技術は、1948年（昭和23）に誕生して以来、下水道事業を主な活用の場とし、長距離推進や曲線施工、巨石・岩盤や超軟弱地盤対応、超大口径管推進や改築推進など、幾多の至難な要求や施工条件を地道な努力と斬新な発想から見事克服し、今や、世界に冠たる最高水準の地位を獲得している。この樹立した高度な推進技術は、東南アジアや中東諸国など、今後、早急な下水道整備が望まれる新興諸国から熱き注目を集めることはもとより、今後将来予測される我が国の地下インフラ再構築事業にも必要不可欠な手法だ。それを踏まえ直面する最大の課題は、適正かつ円滑な次世代への技術継承だ。今の技術を誰に託すか。受け手側の人材確保とその育成が、今日の我が国推進業界にとって不可避の最大課題だ。

本日の座談会は、この課題の奥深さを探るため、推進業界での若手、中堅、円熟技術者の方々に参加いただき、それぞれの経験、立場から忌憚のない現状認識と斬新な提案をお伺いする。

**石川**：本日の座談会のテーマは、我が国推進業界の先人達が築き上げた世界に冠たる最高位の推進技術を如何に次世代へ継承するため、それに必要な新規人材の確保と育成が必須条件となることは自明ですが、現状においてそこにどのような課題が潜んでおり、その根源的な解決にはどのような施策が必要となるのか、現在、推進業界でご活躍中の若手、中堅、円熟期を迎えた6名の方々にお集まりいただき、忌憚のないご意見をお伺いしたいと思います。

若手世代として参加された大久保さんと宮川さんから、就職に当たっての想いや新人時代を振り返り楽しかったこと、逆に辛かったことを含め、自己紹介をお願いいたします。

**大久保**：(株)アルファシビルエンジニアリング、入社7年目の大久保です。私は高校卒業後、就職する意向でしたので、学生時代は簿記やパソコン関係の資格取得に励みました。当時は、まさか自分が土木に携わる仕事に就くとは思っていませんでした。入社当初、現場に常駐させてもらい、実際の作業を間近で見ることができ、さら

## 今の技術をだれに託すか？ その受け手となる人材を確保・育成し 適正かつ円滑な次世代への技術継承が必要

いしかわ かすひで  
石川 和秀

月刊推進技術編集委員会副委員長

に工場見学で掘進機・推進設備を目の前で見たことが印象的で、土木業界を知らない私でもとてもいい体験ができました。

しかし、特殊な業種なので聞きなれない言葉や表現など難しいことが多く、まずは覚えることが大変で日々苦勞しています。けれども、勉強していく中で新しい知識を得たり、覚えたことが仕事に活きるととても嬉しく達成感があります。

**宮川**：日特建設(株)東京支店所属、入社5年目の宮川です。弊社は推進工事に限らず、法面工事・地盤改良工事など事業内容は多岐に渡り、私自身も就職活動にあたっては法面技術に長けた技術者を志して日特建設を志望しました。入社後に推進工事に精通する先輩方の下でも現場管理を学び、徐々に推進工事を多く担当するようになっていきます。新人時代は多種多様な工事・土地に従事し、その幅広さを学べる事に楽しさを感じていました。弊社特有の少人数での施工体制が性に合っているのか新人時代には特段辛かった思い出はありません。強いてあげれば朝早く起きる生活リズムになれるまでに苦勞しました。

**石川**：次に、この業界での中堅世代として参加された安田さんと藪ノさんに、先ほどのお二人と同じ質問を含め、自己紹介をお願いいたします。

**安田**：ヤスタエンジニアリング(株)経営企画本部、入社13年目の安田です。私は異業種からの転職で前職はアパレル会社で勤務をしていました。学生時代にラグビーをやっていたこともあり、ラグビー選手として就職しましたが、引退後も勤務を続け、15年の経験を積んだ後、

40歳を前に転職を考え、父の会社であるヤスタエンジニアリングで働くこととなりました。現場での仕事は未経験ですが、主に人事総務経理の担当をしております。入社当初は技術のこともわからず、何から手を付ければいいのか？もわからず、がむしゃらに働いていたように思います。技術を知るきっかけとなったのが、弊社技術のNETIS登録申請と補助金の申請業務に携わったことがきっかけです。その後、新卒採用を行うようになり、学生に対する説明や現場見学会を通じて、少しずつ推進工法のことを学んでいきました。現場で勤務をした経験がないので、皆様と視点は違うかもしれませんが、異業種からの転職ということで、会社組織についての課題や業界全体における課題などを客観的に見つめ、業界の魅力の発信や人材の育成について、取り組んできたことなどをお話できればと思います。

**藪ノ**：(株)奥村組2000年入社の藪ノ和洋です。大学では機械工学を専攻していましたので、ほとんどの同級生がメーカーに就職する中、建設業に入社したのは私一人でした。大きな物造りがしたくて建設業を選びました。新人時代を振り返りますと、楽しかったことは、工事が進むにつれて構造物が出来上がっていくことに対する達成感を得られたことです。また、辛かったことは、親以上の年齢の作業員さんが多い中、いかに安全に怪我無く作業していただけるか、コミュニケーションを含め施工管理の難しさを痛感したところです。

**石川**：最後に、この業界での円熟世代、次世代への技術継承に頭を悩めているであろう吉田さんと市川さんから、遠い昔を思い起こしていただき、おなじ質問で自